

ほぼ一年ぶりに戻ったルワンダ。着いてビックリ！ルワンダの町がござっぱりしていた。しかも車とオートバイの数がどおーんと増えていた！アフリカはポレポレ（ゆっくり）と言うけれど、この変化に戸惑う私である。

【初めてのチャリティーコンサート】

2005年暮れ、ワンラブで初めてチャリティーコンサートを開いた。今までサポーターたちが自主的にチャリティーコンサートを開いてくれたことはあったけれど、自分たちで計画を進めたのは初めて。わからないくせに、気持ちばかり先立って、とにかくやるぞ！と動き出したのであります。

会場は毎年訪ねる京都の小学校の隣にある修道院のお御堂。家庭的な雰囲気落ち着いた場所である。

何をするか？ワンラブのカラーを出すために、コンサートだけでなく、報告会も、それからルワンダの民芸品も持ってきているから、それも売りたい。え〜とせっかくだからみんなをおもてなしするために料理も出しちゃえ！てな感じ。だけど一体誰がそれをやるの？という一番肝心なことが甘い私。でも人と人とのつながりってありがたい。一人二人とボランティアを名乗り出てくれる人たち。

会場の広さを考えて、チケットの数を出し、それに基づいて料理の量を計算。どんな料理を出そうか。とにかく当日は私の頭の中はパニックになること間違いなし。だからできる限り安全策を取りたい。失敗は許されない！しかしガテラはせっかくみんなが来てくれるのだから、あれも出したいこれも出したいと。それから料理が冷めてしまっただけはダメ！ガテラのプライドが許さない。そして結論。ルワンダの炊き込みご飯「ピラウ」、グリーンピースとジャガイモを煮た「アマシャザ・ニ・イビライ」、それから東アフリカでよく食べられている揚げパン「マンダジ」に決定！

チケット作りは印刷・デザインのプロの人が手伝ってくれ、ガテラと私の似顔絵の入ったとてもかわいいのが出来上がりました。そして肝心な売れ行きは？ありがたい！ほぼ会場が満員になる計算。

コンサートで演奏してくれるのは、内田奈織さんというハープ奏者。そして友情出演はフルート奏者の岡本果奈さん。内田さんにはコンサートの前に一度だけお会いした。ほっそりした美人。でも何故かふっと、立膝をついて湯飲みに入った日本酒を飲んでいる姿が思い浮かんでしまった。これは私の勝手な想像。何となく力強さを感じさせる女性。

ガテラと私は数日前に京都入り、準備に取り掛かる。そして関東方面からは、いつも私に適切なアドバイスをくれるシスター、チケットを作ってくれた女性、あちこ

ちに知り合いのいる頼れるおばさま、日本事務所を手伝ってくれているOL麻子ちゃんが駆けつけてくれた。会場のセッティングはやはりボランティアを名乗り出てくれたご夫婦。何度かコンサートを開いたことがあると言うので、手際も良い。それからそれから、たくさんの関西方面の助っ人たち。ガテラとは言う、マンダジ作りに余念がありません。マンダジとはとどのつまりドーナツ。生地を練って少し寝かせ、後はひたすら揚げる作業。みんなが「手伝おうか？」と言っても、執念で150人分を揚げるガテラ。見てくれは悪いけど、素朴な味のドーナツが出来上がり。しかし終わった後は油臭いし、疲労困憊。



150人分のマンダジ作りに取り組んでいるガテラ

当日は天気も上々。京都の冬は寒いと聞いていたので、覚悟を決めたのだけど、その日は太陽が照ればポカポカ。それぞれの場所に配置するボランティアの人たちも到着し、打ち合わせ。私たちは食事作り。前の日から下ごしらえをしたというものの、結構たくさんの作業がある。ガテラは指示を出しつつ、お鍋の前に陣取っています。

あれよあれよと言う間に開場の時間。でもみんなが手際よく進めてくれたので、スムーズにことは運ぶ。司会は声もきれいなプロのアナウンサー。

まずはアフリカンランチ。正直言って、焦がしてしまったり、ご飯の焼け具合が今ひとつだったり、出来上がりは満足度70点だったけれども、人の気持ちと言うものはありがたい。皆さん「おいしい」と言って食べてくれました。日本で150人分の料理と言うと、とてつもない量を想像していたのだけど、よくよく考えてみると、ルワンダのワンラブのレストランでパーティなどが開かれる時は、その位の量は用意していたのである。しかもその時のほうが種類が多い。慌てず、ゆっくり考えれば何も問題はないのだ。

そして報告会。いつもより少し短く30分間。スライドを見てもらいながら、ワンラブの歩みを紹介。



聖母学院小学校の子供たちにサインをねだられるガテラ

思えば今から10年前、ルワンダ政府からもらった土地に建設を始めた時は、な一人もなかったなあ。ただの荒地。それが今ではたくさんの緑に囲まれ、自称「ワンラブの森」となったのである。ルワンダの歴史についても触れた。忌々しい過去ではあるけれど、このことをきちんと伝えないと、今のルワンダを知ってもらうことが出来ない。

いよいよコンサート。クリスマスが近いこともあって、内田さんと岡本さんは相談し合って、赤と白のサンタクロースチックな衣装を身につけてきてくれました。ハープという楽器はなかなか身近で見るとは出来ないけれど、とても存在感のある楽器。そしてこういう言い方をするのは下品だけれど、とても高そう。だってキラキラ輝いているのです。いたずらで触れてしまっただけではないような、そんな気品のある楽器です。そしてそれを自由に奏でる内田さん。弾いている姿を見ると、結構体力もいりそうです。そうそう、内田さんの手を見せてもらいました。思ったよりも指がゴツく、職人の手と言った感じ。白魚のような指も魅力的ではあるけれど、私は内田さんのような手のほうが好きだなあ。サポートする岡本さんのフルートも、耳に心地よく響きます。そして傍らには、内田さんが支援をしている、盲人のための盲導犬が、目を閉じて演奏を聴いている。



チャリティコンサートで演奏する内田さんと岡本さん

時間はあっという間に過ぎ、クリスマスソング・メドレー。会場のみみんなも一緒に歌いました。ああ、なんか、こういう家庭的なコンサートってありがたいな。立派なホテルで、高いお金を出して、きれいなドレスに身を包み、ナイフとフォークのたくさん並んだテーブルでお食事をしながら演奏をということもあるけれど、今日のコンサートはそれよりもずっと素敵。やっぱり人生に必要なのは「愛」ですね。

パニック状態の頭で迎えたコンサート。とても素晴らしかったと思います。特に問題も起こらず、無事に終わらせることが出来ました。これは全て手伝ってくれたみんなのおかげ、そして来てくれたみんなのおかげです。会場となったお御堂は神聖な場所、そこに土足で上がって汚してしまうということをととても心配していたのだけれど、快くその場所を貸してくれた修道院のシスターたち。どうもありがとう。チケットを作ったり、それを売りさばいたり、裏方でがんばってくれた皆さん、どうもありがとう。コンサートを見に来てくれた皆さん、ありがとう。

コンサート翌日、京都はうっすらと雪化粧。昨日降らなくて良かった。天が私たちに見方をしてくれました。

日本とルワンダの距離をもっと縮めるために、いつかルワンダの踊り子たちを呼んで、みんなに見てもらいたいなあ。とても素晴らしいのだもの。男の人の力強さと、女の人の繊細さがうまく混じりあって、何度見ても飽きません。真剣にスポンサーを探そうかしら？

ワンラブ初のチャリティコンサート、愛のあふれた暖かいものが出来上がりました。今度は関東でもぜひやってみたいと思います。

【研修員日本滞在記】

前号でもお知らせしましたが、2005年8月、ルワンダから義肢製作の勉強をするための研修員が来日しました。2004年に引き続き二人目です。

1ヶ月の日本語研修をし、それから半年の技術研修。日本語の上達は目まぐるしいものがあるようです。去年は私たちも日本にいたので、時々電話をかけてくれました。「モシモシ、エマーブルデスガ…」私たちが留守の時は、私の父が電話に出るのですが、きちんと意志の疎通もしていました。う～ん、私が10年近くルワンダ語の勉強をサボっていると言うのに、彼はほんの1ヶ月でこの上達だ。私は完全に負けている…。

技術研修は、前年度に引き続き、横浜の義肢製作所で。再び親方にしごいてもらいます。弱音をはくと思いきや、真面目に通って、熱心に勉強をしているとのこと。私たちも何度か親方のところに様子を見に行きました。日本語が上達しているとは言っても、不自由はあるだろうに。それでも親方は「何のことはねえ」って感じで、指導を進めてくれました。むしろ、楽しみながら受け入れてくれたように感じます。

心配していた食事の問題も、まあ何とかクリア。ちなみに一番初めに食べた日本の食べ物はラーメンとか。そ

して豚肉を食べると病気になると思っていたが、食べてみるとこれがおいしい！ということだ。

日本の人たちとも知り合って、結構滞在中にいろいろな所を回った様子。お正月は私たちの家に来てお雑煮も食べました。だけど、ルワンダにいる時は、彼がこんなに積極的だということは知らなかった。趣味で楽器も奏でると言う。もう10年来の付き合いだと言うのに、人間とは未知な部分の多いことよ。

そうそう、去年愛・地球博に参加しているとき、彼も一度足を運んでくれました。でも人の多さにビックリ！ルワンダはアフリカの中でも人口密度のかなり高い所だけれど、日本のような混雑はない。何をしても列、列、列。何だか、こんなざわついた日本が恥ずかしくもあります。

日本の滞在を楽しみながらも、本来の目的である研修をきちんとこなしたエマーブル。この通信が出る頃には、既にルワンダに戻っている。

日本の技術を学び、ルワンダに戻り、そこで何を感じるのか。彼にとっては、初めての先進国への旅。新しい発見も多かったと思う。エマーブルが言った。「外に出ることは素晴らしい。なぜならばいろいろなことを見ることができるから。」私が初めてアフリカを旅行した時も、毎日が発見だった。そしてそこで生活をするようになってからも発見は続いている。

ちなみにエマーブルの面白言葉。電車を見て「長いバス」。ルワンダには電車が走っていないから、このような表現になったようだ。

ルワンダに戻り、セザールと相談し合って、より良い義足を作っていこうね。彼がどんな義肢装具士に育っていくか、とても楽しみです。



万博開催中のガテラとエマーブル

【留守中のルワンダ】

去年はほぼ1年ガテラと私はルワンダを留守にしました。愛・地球博への参加、そしてその後活動報告会、チャリティーコンサートなどに突入し、ルワンダに戻ったのは今年の1月半ば過ぎ。それではその間、誰がワンラブを守っていたか？セザールである。去年の2月

にガテラと私は日本へ行き、まだ研修の続いていたセザールと落ち合い、作戦会議。

ちょうど彼は日本で刺激を受け、熱くなっている状態。その彼に責任と言うものを持ってもらうために、単純に義足を製作するだけでなく、運営にも携わってもらうことにした。

かなり神経を使ったことだろうと思う。運営をすることとは雑務を全て行わなくてはいけないということ。ただどいずれは彼らが行なわなくてはいけない。今回ルワンダを留守にし、日本に長期滞在できたのは、ある意味で彼らに力をつけてもらうチャンスである。

セザールがルワンダに戻り、私たちは日本。わからないことは、電話でやり取りをした。それなりに電話代もかかってしまったけれど、これはセザールへの投資。

彼が守らなくてはいけないのは、キガリの義肢製作所だけではない。レストランの管理、ゲストハウスに泊まった人たちの記録、スタッフの出欠チェック。多分それらの雑務に追われて、義足を製作している時間は少なくなってしまうに違いない。でも彼は一生懸命こなしてくれた。お金の管理も、ミスもあったものの、初めての割にはがんばっていたと思う。

これからは少しずつ、私たちもこれらの仕事から距離を置いて、彼らに任せるようにしたいと思う。そうすることによって、彼らに責任感が生まれてくることは間違いない。私たちが死んでもワンラブは不滅です。そのため「後継者を育てていくこと」これが今の一番の目的です。

【親方がやってくる!!】

あれは確か、今年の初めのことだったと思う。エマーブル、セザール、そして私がお世話になった横浜の義肢製作所の親方から一本の電話が。「あのよお、俺、ルワンダに行ってみようかと思って」ビックリして言葉を失ってしまった。親方のところを訪問するたびにガテラは「一度ルワンダに来てください」と言っていたものの、まさかそんなことを親方が考えてくれるとは！そしてそこで靴を製作している職人の佐藤さんも一緒に。

頭の中で、何をすべきか？ということがグルグルと回る。まずはパスポートだ、それからビザの手配だ、そして航空券も探さなくては。しかし親方も佐藤さんも海外旅行は初めてのはずである。果たして道中無事に来られるのだろうか？英語だって、いくらセザールやエマーブルに教えていたからって、海外旅行用の英会話までは出来ないかもしれない！どうする、どうする？

しかし救いの神はいるのである。現在研修員を受け入れている研修センターのスタッフ前田理恵子さん（ルワンダも既に3回訪れ、そのうち1回は1年間の滞在、強力なワンラブの助っ人）が再度ルワンダを訪れたいと。そこで擦り寄る私。親方たちをルワンダまで引率してくれないだろうか？ノリの良い彼女は簡単にOKしてくれた。しかも往復OKだと。ありがたい、これで親方たちの道中は安心だ。

これを書いている現在、彼女は航空券を取ったり、段取りを練ったりしているに違いない。

親方たちは4月半ばにやってくる。私も初めて自分の職場を見てもらうので、ドキドキである。しかしこの機会を感謝したいと思う。未熟な私ではあるけれども、親方に教えてもらったことがルワンダで生きているということを見てもらいたい。ガテラもずっとそれを望んでいた。報告会のたびに、ルワンダに来てくださいと彼が呼びかけるのは、自分たちのやってきたこと、それを見てもらいたいから。そして親方の経験を生かして、何が足りないか、どこに問題があるかということを見せてもらいたい。

親方のルワンダ旅行記、果たしてどんなことになりませうやら。

【ワンラブ10周年】

ルワンダで動き始めてから、今年で10年。時が流れるのは早いものである。いろいろなことがあった。泥だらけにもなったし、ペンキ塗りもした。スタッフも怒鳴った。泣いたりもした。ガテラと二人で、ジーンズとTシャツでオフィスを訪れた時は、私たちがボスであるにもかかわらず「お前たちのボスを呼んでこい」と言われてしまった。

10年の節目に、6月にワンラブの式典をしようと思っています。そして気分をリフレッシュし、誓いも新たに再び戦おうと思います。

その頃植えた苗木は、今立派に育っています。あの泥だらけの場所が、今のような状態になるとは、自分自身思っていませんでした。木にはたくさんの鳥がやってきて、巣を作ったり、水場で羽を休めたりしています。

始めた頃のビデオをまとめようと思って、最近中身をチェックしています。私たちはかなり若かった。そしてスタッフたちも若かった。辞めてしまった人、死んでしまった人、たくさんの人がワンラブの上を通り過ぎ、そしてそこで立ち止まってくれました。関わってくれた人は、日本・ルワンダ、そして世界に広がっています。

今年に入って、日本からの旅行者も何人が訪れてくれました。バイクで世界を回っているバイク野郎、バックパックをかついでアフリカを旅している男性、そして夫婦。どこかでワンラブのことを知って来てくれた人たち。自由に動き回っている姿がうらやましい。

彼らがまたどこかを旅して、ワンラブのことを伝えてくれる。そんなことを繰り返しながら10年が過ぎていった。

私たちのからだの動くうちは、これからも戦うぞ。そしてワンラブの10周年、みんなも一緒に、ぜひ祝ってくださいね。



電の寒さに震える猫たち

猫たちが相変わらずたくさんいます。

この間ヒョウが降った時、とても寒かったです。ダンボールの中には多分15匹くらいの猫がダンゴになっています。

【ルワンダあれこれ】

しばらく留守にしている間に、ルワンダは変化していた。まずは町がきれいになっているということ。最近ルワンダは環境問題にうるさい。以前のワンラブ通信にも書いたけれど、ビニールのお買い物袋が一切中止になった。その代わりに自分の手提げを持って行って、そこに買った物を入れる。持っていない人は10円で紙袋を買う。だから今まで町にビニール袋の残骸が散乱していたのだけれど、それがなくなった。しかし黒い色をしたそのビニール袋は、炭に火をつけるときの良い焚付けになるようで、それが使用中止になって批判している人も多いことは確か。

そして町の整備。歩道にはブロックが敷かれ、人が歩きやすいように。歩道には木も植えられている。町の中心にあるロータリーの花壇もきれいに手入れされている。現在建設中だけれども、ショッピングセンターも出来るらしい。郊外にはお洒落なモール(?)も出来たらしい。

一番驚いたのは、車やバイクの量が増えたということ。仕事が終わる時間になると渋滞も。ルワンダではバイクタクシーと言うものがあり、一般の人に結構利用されている。でもその運転の仕方が問題。車の間をぬって走るのでとても危険。事故もしばしばあるようです。だけどこの間雨が降った時、後ろに乗っていた人が傘をさしながら走っていたのが笑えた。このバイクタクシー、以前は犯罪に巻き込まれることも多かったとか。お客さんを乗せて、遠くまで連れて行ってしまい、そこで運転手が泥棒に変身するとか。これらの犯罪を防ぐため、バイクタクシー協会(と言うのかな?)が作られ、組織だって運営されるようになりました。全てのバイクタクシーが登録され、制服を着て町を流すようになりました。

車は日本の中古車がたくさん走っているのだが、去年右ハンドル車の輸入が禁止になった。日本の中古車は多分世界的な規模のマーケットを持っていると思うのだが、ルワンダでもかなりの量の日本車を輸入していたはず。

町では「〇〇保育園」とか「××温泉」など書いてある車が走っているのだが、それもいずれは見られなくなるのだろうか？何となく「××温泉」と書いてあると、そこに乗っている黒い顔をしたルワンダ人がみんな浴衣かなんかを着て、温泉に向かう姿を思い浮かべてしま5ったのだが。ルワンダは車は右側通行なので、右ハンドル車は危険と言う理由。確かにわからないでもないけれど、輸入禁止にまでしなくても良いような気がするのだが…。

そうそう、物価も上がった。特に激しいのがガソリン。日本の値段となんら変わりがない。ルワンダは内陸にあり、また国の発展も充分でないため、たくさんものを輸入に頼っている。海岸沿いの国からルワンダまで荷物を輸送すると言うのは、かなりコストがかかる。ガソリンが値上がりすれば、当然輸送費も上がる。輸送費を上げると、当然ルワンダに着いた品物の値段も上げなくては行けない。市民の生活はますます大変になっている。

雨期のこの時期、激しい雨がルワンダを襲う。向うから黒い雲がやってきたなあとと思うと、風が吹き出し、そのうち大雨。この間も夜に大雨が降ってきた。トタン屋根の我が家はその雨音がうるさい。しかし今日はやけにうるさいぞ、と思って外を見ると、大粒の雹。せっかく実った農作物も、これでいっぺんにだめになってしまう。次の日外に出てみると、うちの庭木も倒れてしまっていた。

新しいこととしては、メーター付きのタクシー登場。今までは全て運転手との交渉で値段が決まっていたので、特に旅行者などはぼったくられることもあったのだけど、このタクシーの登場で安心して乗れるようになった。しかも以前のタクシーより良心的な値段。そしてなんと！車の中には電話もついている！

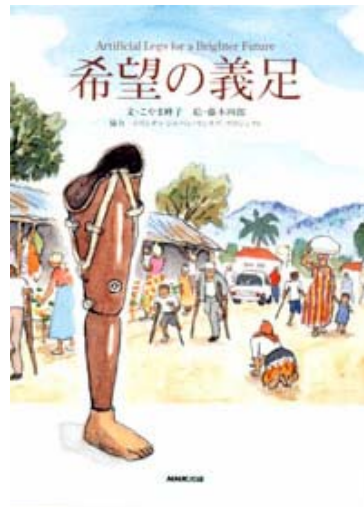
ルワンダでは、以前から路上で商売をすることを厳しく取り締まっていた。例えばあなたがお店を持っていて、そこで果物を売っていたとしましょう。彼らはあなたのお店の前で、バナナを通る人にバナナを売りまくっています。あなたはお店を構えるために家賃を払っています。税金も払っています。当然目の前で、それらのものを支払わずに商売している輩に腹が立ちますね。営業妨害だと。路上商売の人たちはいろいろなものを売っています。タバコ・飴・古着・靴・サングラス…。中でも私がう〜んと唸ったのは、腹巻のような巨大ブラジャーを売る青年。そしてその品定めをするおばちゃん。両者の間に「下着」と言う淫靡な感覚はありません。それらの商売人を取り締まるために日々町を巡回しているのがローカルディフェンスと呼ばれる人たち。警棒を持ちながら、一人二人と捕まえていきます。でも彼らがどんなに追っかけても、頭にかごを乗せたおばちゃんたち、あつという間に逃げてしまいます（時々、お尻の重いおばちゃんは転んでトマトをあっちこっちにばらまいたりしているが…）。それから売り物であるジャケットをサッと羽織り、何気ない顔でその場を逃げ切るやつとか。このイタチごっこ、果たして軍配はどちらに上がることやら。

と、めまぐるしく変わっているルワンダの町並み。お願いだから、先進国が犯してしまった発展のための間違った歩みを、ルワンダがたどってしまわないように。

【スワヒリ語を勉強してみませんか？】

ワンラブ・プロジェクトでは、ルワンダでスワヒリ語を勉強する人を募集しています。期間は3ヶ月間。滞在する場所は、ワンラブランド内のゲストハウス。費用は航空券・滞在費・授業料などが含まれて72万円です。詳細はホームページをご覧ください。お問い合わせは：info@onelove-project.infoまで

【絵本が発売されたよ！】



NHK出版より、ワンラブの歩みを描いた絵本が出版されました。この本は、以前プロジェクトXでワンラブのことが紹介された時に、絵本作家のこやま峰子さんが関心を持ってくださり、実現したものです。

出版社の人たちにわがまを言って、日本語の文章の下に英文のシールを貼ってもら

うようお願いをしました。通常は日本語ですけれども、英語を理解する人にも読んでもらおうという考えです。何故英語にこだわったかと言うと、ルワンダの人たちにも見てもらいたかったからです。例えばルワンダの小学校にこの本を置いてもらって、子供たちに伝えていく。そんなことが出来たらいいなあ。

ぜひ皆さん、お買い求めください。自分で言うのもなんですが、子供でなくても楽しめる絵本です。

一冊1500円。売上の一部はワンラブの活動に寄付されます。ベストセラーを狙ってまっしぐらだ！

「希望の義足」

出版社：日本放送出版協会

定価：1575円(税込)

文：こやま峰子

第28回日本童謡賞特別賞受賞、

第26回巖谷小波文芸賞受賞、

第28回)9日本児童文芸家協会賞受賞。

絵：藤本四郎

アニメーションの美術・演出に携わり後、絵本の挿絵、風景画家として活躍。

【日本事務所から絵本のお取り扱いについて】

主人公ルダシングワ真美（旧姓吉田）の生い立ちからふるさと神奈川県茅ヶ崎の海岸にてはるか遠い水平線のかなたを眺めながらいつかは海外へ渡りたいという夢、中学二年で亡くした母の死を乗り越えいろいろの思い出を残し、族紛争後のルワンダへ渡り障害者の為の義肢義足製作に従事、現在に至る人生行路が描かれております。是非ともご一読くださいませ。

書店店頭、ネットショップにて御求めいただけます。

ワンラブ・プロジェクト日本事務所にてもお取り扱いいたしますが、その際に**送料+寄付の入った金額**となってしまいますので、ご了承の上、お申し込みくださいますようお願い申し上げます。また、海外への送付は、こちらではお取り扱いできませんのでご了承くださいませ。**送料は一律 425 円とさせていただきます。**

- 1冊×1575円+送料425円＝ 2000円
- 2冊×1575円+送料425円＝ 3575円
- 3冊×1575円+送料425円＝ 5150円

実際の送料との差額は、寄付とさせていただきますが、3冊からは、送料の一部をワンラブ・プロジェクトが負担いたします。

絵本代につきましては手違いあると申し訳ありませんので別紙払込取扱票にてご注文ください。

【おことわり】

当団体はご提供いただいた個人情報について、皆様からご同意をいただいた場合や、正当な理由がある場合を除き、第三者に公開、提供することはございません。また通信発送の際は、十分な注意をしているつもりですが、お名前・ご住所の間違い、ダブって送付されるなどの手違いがございましたら、ご連絡ください。

また、次回のワンラブ通信発送から、過去5年間に支援のない方には発送を中止しますのでご了承ください。

なお、個人情報管理の観点から、ご支援していただきました皆様のリストを今号からは、掲載しないこといたしました。どうぞよろしくご了承お願い申し上げます。

ワンラブ通信 第32号
2005年4月

発行：ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクト
〒253-0054 茅ヶ崎市東海岸南6-6-69
Tel:0467-86-2072 Fax:0467-86-2092
e-mail : info@onelove-project.info(日本事務所)
onelove@rwanda1.com(ルワンダ事務所)
<http://www.onelove-project.info/>
郵便振替口座：00210-5-66497
ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

